

製品名: TAL1 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab18634**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	45kDa

抗原情報

遺伝子名	TAL1
別名	TAL1; BHLHA17; SCL; TCL5; T-cell acute lymphocytic leukemia protein 1; TAL-1; Class A basic helix-loop-helix protein 17; bHLHa17; Stem cell protein; T-cell leukemia/lymphoma protein 5
遺伝子 ID	6886.0
SwissProt ID	P17542
免疫原	抗血清はヒト TAL-1 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 96-145

背景

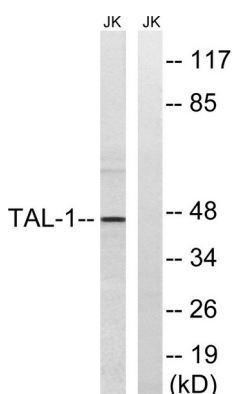
代替製品:スプライシングパターンは細胞系統依存的である,疾患:TAL1 が関与する染色体異常は、一部の T細胞急性リンパ芽球性白血

病 (T-ALL) の原因である可能性がある。T 細胞受容体 α 鎖 (TCRA) 遺伝子の転座 t (1;14) (p32;q11) 。,ドメイン:ヘリックス-ループ-ヘリックスドメインは、DRG1 との相互作用に必要かつ十分である。機能:造血器悪性腫瘍の発生に関与する。造血分化において重要な役割を果たす可能性がある。赤血球分化の正の調節因子として機能する。PTM:セリン残基がリン酸化される。Ser-122 のリン酸化は低酸素によって強く刺激される。PTM:ユビキチン化;低酸素依存性の Ser-122 リン酸化に続いて、ユビキチン化によりタンパク質はユビキチンシステムを介して急速に分解される。このプロセスは大血管内皮細胞では観察されなかったため、微小血管内皮細胞に特徴的なものである可能性がある。類似性: 1つの塩基性ヘリックス・ループ・ヘリックス (bHLH) ドメインを含む。サブユニット: 効率的な DNA 結合には、別の bHLH タンパク質との二量体形成が必要である。TCF3 とヘテロ二量体を形成する。LIM ドメインを含むタンパク質 LMO2 および DRG1 に結合する。LDB1 および LMO2 と複合体を形成できる。少なくとも CBFA2T3、LDB1、TAL1、および TCF3 から構成される TAL-1 複合体の構成要素。組織特異性: 白血病幹細胞。代替産物: スプライシングパターンは細胞系統依存性である。疾患: TAL1 に関連する染色体異常は、一部の T 細胞急性リンパ芽球性白血病 (T-ALL) の原因となる可能性がある。T 細胞受容体 α 鎖 (TCRA) 遺伝子との転座は、t(1;14)(p32;q11)である。ドメイン: ヘリックス-ループ-ヘリックスドメインは、DRG1 との相互作用に必要かつ十分である。機能: 造血悪性腫瘍の発生に関与する。造血分化において重要な役割を果たす可能性がある。赤血球分化の正の調節因子として機能する。PTM: セリン残基がリン酸化されている。Ser-122 のリン酸化は低酸素状態によって強く刺激される。PTM: ユビキチン化。低酸素依存的に Ser-122 がリン酸化されると、ユビキチン化によりタンパク質はユビキチンシステムを介して急速に分解される。このプロセスは大血管内皮細胞では観察されなかったため、微小血管内皮細胞に特徴的なものである可能性がある。類似性: 1つの基本ヘリックス・ループ・ヘリックス (bHLH) ドメインを含む。サブユニット: 効率的な DNA 結合には、別の bHLH タンパク質との二量体形成が必要である。TCF3 とヘテロ二量体を形成する。LIM ドメインを含むタンパク質 LMO2 および DRG1 に結合する。LDB1 および LMO2 と複合体を形成できる。少なくとも CBFA2T3、LDB1、TAL1、および TCF3 からなる TAL-1 複合体の構成要素である。組織特異性: 白血病幹細胞。

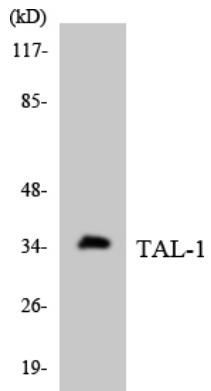
研究分野

細胞生物学、細胞周期、細胞分化、エピジェネティクスと核シグナル伝達、幹細胞、造血前駆細胞、細胞内分子、血管芽細胞、発生生物学、器官形成、造血系の発達

画像データ



PMA 125 ng/ml 30 μ l 処理した Jurkat 細胞ライセートの TAL-1 抗体を用いたウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングした。



TAL-1 抗体を使用した HT-29 細胞の溶解物のウエスタン ブロット分析。